



4月20日、鳥羽一丁目の観光商業施設「鳥羽一番街」で、地震と津波を想定した初めての防災訓練があり、従業員67名が参加しました。

今回の訓練は、マグニチュード(M)8の地震が起こり、大津波が押し寄せることを想定して行われました。

また、防災啓発車(震度体験車)で最も揺れが強い震度7も体験しました。

従業員たちは、避難誘導班の指示に従い、真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

地震と津波を想定した防災訓練



明治6年より海上交通の安全のため明かりを灯してきた、現存するわが国最古のレンガ造り灯台の菅島灯台は、平成22年に国の登録文化財になりました。

第四管区海上保安本部では、破損の激しかった灯台敷地の入口門から灯台までの歩道を景観に配慮し整備しました。

歩道の一部には、旧灯台官舎(犬山市の博物館明治村に移築されている重要文化財)に使用されていたレンガを博物館明治村より譲り受けて使用しています。

また、同敷地内にある登録文化財のプレートを掲げた石碑には、菅島小学校児童が製作した菅島灯台の模型を元に製作された石板が埋め込まれています。

菅島灯台に歩道が整備されました



4月20日、答志町の答志老人クラブ舞踊部が、安楽島町の介護老人保健施設「鳥羽豊和苑」を訪れ、入所者に踊りを披露しました。

舞踊部には、68歳～90歳までの13名が所属しており、島の祭りや集まりなどで踊りを披露しています。

踊りが終わるたびに約50人の入所者から大きな拍手が送られました。

華麗な舞が披露されました



東日本大震災で被災した東北三陸地方の漁業を支援するため、ODAWA創林株式会社(鳥羽三丁目)が養殖いかだ用の間伐材を宮城県漁協へ寄贈しました。

津波による被害で養殖用のいかだが不足していると知った小田和人社長が「少しでも力になれることをしたい」という思いから、社員らと大紀町の山林でいかだ用の資材に適した直径13cm程のヒノキを切り出しました。現地ですぐにいかだが組み立てられるように樹皮をはがし、長さもそろえました。

5月16日、間伐材158本をトラックに積み込んで社員2名が出発し、翌日、宮城県東松島市の漁協鳴瀬支所へ無事に送り届けました。

被災地の漁業を支援したい